

金融経済教育研究授業を行って

愛知県犬山高等学校
林 和宏

生徒が、いかに「自分ごと」として考えられるか。どの単元においても、授業の構想を練る際に私が大切にしていることの一つである。その点において金融経済分野は、高校生には縁遠い（ことが多いであろう）内容であり、授業の構成にはいつも頭を悩ませる分野であった。そのような中で、今回の研究は大変ありがたい機会となった。

授業で使用した「はじめてのサステナブルファイナンス」の生徒用テキストは、金融の仕組みや SDGs の用語解説など、既習の内容が確認しやすい教材であった。同時に、ESG 投資という新たに学ぶ内容についてもわかりやすくまとめられており、授業が進んでも生徒が手元に置いて都度確認する様子が見られるなど、使い勝手のよいものとなっていた。

今回は、生徒が「自分ごと」として考えることができるよう、生徒にもなじみのある食パンを製造する企業の ESG に対する取組みを調べる、という授業を行った。これも全国銀行協会の「はじめてのサステナブルファイナンス 対話型ワーク教材」を参考に構想したものであり、生徒自身が積極的に調べ・考え・表現する機会が得られ、主体的・対話的な活動が活発に行われた。

反省として、生徒の目線に立つことを意識したために、投資家ではなく消費者としての視点で企業の ESG を考える生徒が多く、「金融」教育という枠からはみ出してしまったかもしれないことが挙げられる。しかし、消費者や勤労者など多様な視点で企業を選択することの大切さに気付くことができたとも考えられ、結果的には生徒にとって「深い学び」になったのではないだろうか。

今後、家庭科などとの教科横断的な取組みを進めるとともに、生徒の多角的な思考を促す「金融経済教育」の大きな可能性を追求することで、公民科の教員としての使命を果たしていきたい。

【生徒の感想（抜粋）】

- ・ これからの時代、老後のことなどを考え投資を学ばなければと思った。
- ・ 企業への投資は社会活動への投資なのだと思った。
- ・ 投資と聞いたら自分が利益を得ることだけと考えていたが、ESG という観点を知った。投資が地域社会などにも影響があると分かった。
- ・ そもそも、色々な企業が環境などについて考えて取り組んでいることを知らなかったので、調べてみて驚いた。
- ・ 話を聞くだけでなく、自分たちで調べて理解しやすくなった。
- ・ パン屋の ESG 調べが楽しかった。1つの会社でもたくさんの努力をしていることに気づくことができ、これなら自分も社会のために貢献できると思った。
- ・ 買い物などでもこれまでのように、「安いから買う」ではなく、ESG の視点を考えてみたいと思った。